

教育体験活動

(「1000時間体験学修」)

平成19年度 実践報告書

平成20年9月

島根大学教育学部

「教育臨床総合研究7 2008研究」

平成19年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Practices "Basic Experience Area" in 2007

長澤 郁夫*

Ikuo NAGASAWA

嘉賀 収司*

Shuji KAGA

小川 巖**

Iwao OGAWA

青山 巧*

Takumi AOYAMA

齋藤 英明*

Hideaki SAITO

要旨

島根大学教育学部で新しい教員養成カリキュラムである「1000時間体験学修」の3つの体験領域（「基礎」「学校教育」「臨床・カウンセリング」）を実施し始めてから4年が経過し、平成20年3月には、1000時間体験学修を初めて修了した卒業生を送り出すことができた。

ここでは、4年間を通した基礎体験領域における取り組みの改善事例と、平成19年度の基礎体験領域の取り組みの概要について報告する。

〔キーワード〕 1000時間体験学修、基礎体験領域

1. はじめに

平成16年度に始まった本学部での1000時間体験学修は今年度で4年が経過した。これは、全国初の試みとして1000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程である。この体験学修は、地域の学校等に学生が出向き活動する「基礎体験」、附属学校園における「学校教育体験」、学部でのコア講義・実習を中心とする「臨床・カウンセリング体験」、これら3つの体験領域から構成されている。

特に上記の「基礎体験」は、地域の学校・社会福祉施設・NPO等の団体（事業主）からの、学習支援・放課後学童クラブ・授業補助・各種行事活動補助等の活動申し込みを教育支援センターが受け、これらの情報を学生に提供し、学生が自己選択した活動に事前指導を行って送り出している。このプログラムは、教員としての学部教育における学生の資質・能力の向上をめざし、地域の学校や社会教育施設との連携と協力により、学生により豊かな社会性や人間関係力を身につけさせ、教育的実践力を培うことをめざし実施しているものである。

また、基礎体験活動を通してねらう力として、具体的には6つの力（子ども理解、人間関

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長（心理・発達臨床講座）

係力、社会の一員としての自覚、企画力、指導力、学校理解)を設定し、評価の具体的観点として各活動ごとの事後指導や、各学年ごとの振り返りのセミナーの際に自己評価をさせている。

2. 4年間の基礎体験領域における取り組みの改善事例

まず、1000時間体験学修がスタートした初年度の平成16年度から、平成19年度までの4年間の基礎体験領域における取り組みの改善事例を表1に示す。

表1 4年間の基礎体験領域における取り組みの改善事例

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
基礎体験学修	1年目	2年目	3年目	4年目
事業所との連絡会議	-	-	○1回実施	○2回実施
実習 Semester 学外教育体験	—	—	○	→
ビビットひろば	—	○	→	→
事前・事後指導の実施	—	—	○	→
各学年ごとのセミナーの実施	—	—	○	→
サポートマイスター講演会	—	—	○	→
だんだん塾講演会	—	—	○	→
基礎体験活動記録票	○	→	○改善	→
入門期セミナーⅠ	△(試行)	○	→	→
基礎体験合同説明会	—	—	○	→
実習 Semester 説明会	—	—	○	→
専任教員数	2名	4名	4名	4名

さらに、1000時間体験学修がスタートした初年度の平成16年度から平成19年度までの4年間の基礎体験領域におけるこれらの取り組みを、体験学修の場の確保、質の向上、ガイダンス機能の3つの視点から分類しまとめると次のようになる。

- ① 基礎体験学修の場と体験時間(量)の確保
 - ・事業所との連絡会議
 - ・各学年の後期セミナーでの体験時間数の把握
 - ・ビビットひろばでの学内体験の場の確保
- ② 基礎体験学修の質の向上
 - ・事前指導・事後指導の実施
 - ・各学年ごとのセミナーの実施
 - ・ビビットひろば(専攻別体験学修との連携による専門性の活用)の実施

- ・サポートマイスター・だんだん塾講演会
- ③ 基礎体験学修へのガイダンス機能
 - ・入門期セミナー I の実施（1年生対象）
 - ・合同説明会の実施（1年生対象）
 - ・実習セメスター説明会（3年生対象）

このように、学生へのガイダンスを充実させ、目的意識や意欲を高めさせながら、基礎体験の場と体験時間（量）の確保とともに、質的向上を図りながら教職に就くための資質・能力向上に結びつくように改善に取り組んできた。

3. 平成19年度の取り組み

(1) サポートマイスター講演会

学生向けの講演会をとして、サポートマイスター講演会を実施した。今年度は、子ども達の心の理解や、教師に求められるカウンセリングマインドや特別支援教育の具体的な指導方法について、学部の教育活動評価委員でサポートマイスターとして登録されている、繁浪啓子先生と原広治先生に講演していただいた。

月 日	講演者	講演テーマ
7月10日（火）	島根県立松江教育センター 教育相談スタッフ企画幹 繁浪啓子 先生	「教師に求められるカウンセリングマインドとは」
12月7日（金）	島根県教育委員会特別支援教育室企画官 原 広治 先生	「特別支援教育、そして学校教育において考えること」

(2) だんだん塾

① だんだん塾講演会・研究会参加

教師になるための自覚を高めてもらう、学生向けの講演会を3回実施した。また、公立小中学校研究会への参加も、だんだん塾企画としてとして3回行った。

参加者は、特に教員採用試験を目指す4年生の学生が中心であり、教育現場ではどのような教師が今求められているか、教師としての心がまえや、また最近の教育の諸問題についての様子、学習指導や学級経営のあり方などを講演していただいた。学生達も、目前に迫った教員採用試験への対策とからめながら真剣に聞き入っていた。

回数	月 日	講演者	講演テーマ
第1回	5月29日 （火）	境港市立余子小学校長 渡邊憲二 先生	「教育現場の校長が求める教師像とは」 ～現在の教育改革や教育における諸問題に対して～
第2回	6月13日 （水）	雲南市立西小学校長 神門三郎 先生	「地域・保護者が期待する教師像とは」 ～学社融合によってどのような効果があるか～
第3回	6月27日 （水）	元小学校教諭 佐貫良子 先生	「子ども一人ひとりを生かした学習指導と学級経営」

回数	月日	研究大会名	会場校名
第4回	11月9日 (金)	人権教育研究発表会	松江市立法吉小学校
第5回	11月28日 (水)	研究会「一人ひとりがよく分かる 算数科の授業づくり」	境港市立渡小学校（鳥取県）
第6回	12月6日 (木)	県教育研究会（雲南市） 文科省研究指定校の研究会	雲南市立掛合小学校 雲南市立掛合中学校

② 事前・事後指導

基礎体験での専任教員の仕事のうち、大きなウエイトを持つのが事前・事後指導である。いずれも30分の時間をとり、毎回の体験活動ごとに行っている。特に事後指導では体験学習での学びの振り返りをしながら、自分の成長に役立った点や、同じ参加者の感想を聞きながら学びの共有化を図り、次なる基礎体験への意欲を高めるような指導を行っている。学年が上がるにつれて、子どもとの関わり方や、企画作り等のスキルアップに関して、自己評価を基にしながらさらなる課題に挑戦していくという姿がみられる。表2に、平成19年度の基礎体験活動数一覧表を示す。

表2 平成19年度の基礎体験活動数一覧表

体験フィールド	募集活動総数	主催団体数
学 校	68	39
子 ど も	220	120
地 域	108	66
(総 数)	396	225

なお、上述の活動には、基礎学力の向上という重要な教育課題に対応した「出雲市ウィークエンドスクール」や「松江市サタデースクール」のモデル事業も含まれている。下の表3のように計120名の学生がこの事業に参加し、現場の教師との連携の下に地域の子どもの教育実践に参加している。

表3 土曜日を利用した学力向上のための事業への参加学生数

事業名	出雲市ウィークエンドスクール	松江市サタデースクール	合 計
参加学生数	25名	95名	120名

③ 専任教員による日常相談活動

学生からの要望で、不定期ではあるが次のような日常相談活動を行った。

- ・基礎体験活動における個別相談
- ・生活面での個別相談
- ・教員採用試験に向けての面接指導や願書添削

(3) 基礎体験セミナー

基礎体験セミナーは、基礎体験の個別の事前・事後指導とは別に、各学年での1年間の基礎体験活動を振り返っての自己評価や、情報交換や思いの共有化をねらいとして行っている活動である。

① 入門期セミナー I (1年生対象)

日 時	平成20年4月21日(土)～22日(日) 三瓶青少年交流の家
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育体験活動「1000時間体験学修」の全体像を把握し、4年間の大学生生活の見通しを待たせるとともに、教育学部生としての自覚を促す。 ・これから学生生活を共にする同級生やサポーターとして参加する先輩との交流を深め、今後展開される教育体験活動における仲間意識を培う。

入門期セミナー I は、入学した1年生向けに1000時間体験学修のガイダンスとして、平成17年度より毎年4月に実施しているものである。今年度も、2・3年の学生ボランティアの活躍によって、劇や自らの体験談を交えた1000時間体験学修の説明や、グループ討議などが実施された。1年生にとっても先輩らの話を聞きながら、1000時間体験学修への意欲付けにつながった。



学生ボランティアの指導



グループ討議の様子

② 充実期セミナー I (2年生対象)

日 時	平成19年9月28日 13:00～14:30 教養棟2号館604教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り組んできた基礎体験活動を振り返る。 ・基礎体験領域でねらう資質・能力の視点からこれまで取り組んできた基礎体験活動のデータを分析し、各自の成果と課題を明らかにする。 <p>【体験発表】基礎体験領域におけるこれまでの取り組み 基礎体験領域の活動を通して見えてくるもの</p> <p>【演習】基礎体験領域における振り返り(自己分析と自己評価)</p>

③ 充実期セミナー II (2年生対象)

日 時	平成20年2月13日 13:00～15:00 教養棟2号館504教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・その後取り組んできた基礎体験活動を振り返るとともに、これまで各自が取り組んできた基礎体験活動のデータを分析し、各自の成果と課題を明らかにする。

④ 応用期セミナー（3年生対象）

日時	平成19年12月7日 12:45~14:30 大学会館3F大集会室
ねらい	・実習セメスター中の生活を振り返るとともに、実習セメスターにおける基礎体験活動の総括を行う。

2～3年生の各セミナーでは、数名の代表の学生がそれぞれの基礎体験活動の感想や成果を発表し合い、体験学修の学びに気づいたり共有しあうことができた。

(4) 島大ビビット広場

1) 活動のねらい

島大ビビット広場は松江市内の小学校の3年生から6年生の児童を対象とし、大学内での週末の子ども達の安全な活動拠点を提供する目的で、平成17年より開始された活動である。今年で3年目を迎える。本事業を通して、学生が子どもたちに継続的に関わる機会を確保すると共に、各講座の専門性を生かした専攻別体験学修の場としても提供されている。

2) 学生スタッフは 前期：2年生10名、3年生4名、合計14名

後期：2年生9名、3年生5名、合計14名

3) 実施時期と活動内容

前 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成19年7月14日（土）台風接近のため中止
第2回	平成19年8月11日（土）9:30~12:00 参加者130名 学生スタッフ+4講座（自然環境、英語、家政、健康スポーツ）
第3回	平成19年8月25日（土）9:30~12:00 参加者180名 学生スタッフ+4講座（自然環境、英語、家政、健康スポーツ）
出前ビビット in出雲科学館	平成19年8月4日（土）9:30~16:00 ○出雲科学館の「科学の祭典」に出展 （中止となった第1回目のものづくりの企画を実施）
後 期	
第1回	平成19年11月17日（土）9:30~12:00 参加者81名 学生スタッフ+4講座（国語、自然環境、英語、健康スポーツ）
第2回	平成19年12月8日（土）9:30~12:00 参加者90名 学生スタッフ+3講座（自然環境、英語、健康スポーツ）
第3回	平成20年1月26日（土）9:30~12:00 参加者100名 学生スタッフ+3講座（国語、英語、健康スポーツ）

(5) 合同説明会と基礎体験学修連絡会議

1年生向けの基礎体験の受け入れ先の事業所の方からの説明会である合同説明会を、平成18年は7月に行っていたものを、平成19年度は4月25日に実施した。これはできるだけ早くから1年生の基礎体験学修のスタートが切れるようにしたためである。また、受け入れ先事業所との基礎体験学修連絡会議を4月に加え2月にも行い、1年間を振り返っての反省をふまえた協議も実施した。このことで1年間の成果の確認や、次年度への改善点の共通理解も図ることができた。

第1回合同説明会及び基礎体験学修連絡会議

日 時	平成19年4月25日（水）
参加者	合同説明会 14：30～15：30 参加者：1年生174名 参加事業所：21事業所36名 連絡会議 16：00～17：00 参加者：20事業所26名 教育支援センター：6名
場 所	大学会館3階大集会室及びホール，大学会館2階第3集会室

第2回基礎体験学修連絡会議

日 時	平成20年2月19日（火）
参加者	連絡会議 15：00～17：00 参加者：32事業所46名 教育支援センター：6名
場 所	教養棟503教室

合同説明会では、昨年度基礎体験活動の受け入れをしてもらった事業所に大学まで来ていただき、今年度予定されている活動や活動内容等について、ポスターセッション方式で説明していただいた。説明会の後に行った「基礎体験学修連絡会議」では、まず昨年度の取り組みに対するアンケート結果の報告を行った。その結果をふまえて、1000時間体験学修のねらいである豊かな人間性と実践的な指導力育成のために、今後も協力体制の強化を図っていきたい。

続いて、基礎体験の流れについての説明などを行った後、学校・子ども・地域のフィールド別に分かれてグループ別協議を行った。それぞれのフィールドで積極的に意見交換がなされ、体験を積み重ねることでの学生の変容や、学生という立場が大人と子どものクッションとしての役割を持つ有効性、地域社会で異年齢集団と関わることの大切さ、時間に対する認識の甘さなど、今後の取り組みに対する重要な提案が多く出された。



第1回基礎体験合同説明会



第1回基礎体験学修連絡会議

また、第2回基礎体験学修連絡会議では、基礎体験の受け入れ先から見た各事業所からの活発な意見交換の場となった。平成19年度の受け入れ先事業所へのアンケート結果については表4のとおりである。

表4 平成19年度受け入れ先事業所からのアンケート結果

1-1 教育支援センターの手続きについて

	評 価	平成18年度		平成19年度	
		実 数	%	実 数	%
ア	わかりやすかった	17	41	28	39
イ	普通	22	54	42	58
ウ	改善すべき	2	5	2	3
エ	その他	0	0	0	0
	合計	41	100	72	100

受け入れ先の事業団体も、18年度の約2倍（225団体）となり、アンケート実数も増えてきている。受け入れ団体とのより簡潔で確実な手続きの仕方を工夫していきたい。また、手違い等により迷惑をかけないように学生への連絡を徹底するとともに、トラブルへの早期対応に努めたい。今後さらに、受け入れ団体からも大学での動きが分かる仕組みを検討していきたい。

1-2 連絡調整について

	評 価	平成18年度		平成19年度	
		実 数	%	実 数	%
ア	わかりやすかった	17	41	26	37
イ	普通	22	54	35	50
ウ	改善すべき	2	5	9	13
エ	その他	0	0	0	0
	合計	41	100	72	100

受け入れ団体と学生の思いや事業内容等を話し合ったり、活動の資料を提供してもらうことは、事前指導を深めるのに効果的であるので、必要に応じて事業所をお願いしていきたい。

2. 活動中の学生の様子

	評 価	平成18年度		平成19年度	
		実 数	%	実 数	%
ア	積極的に取り組んでいた	25	61	42	59
イ	おおむね積極的に取り組んでいた	16	39	27	38
ウ	あまり積極的ではなかった	0	0	0	0
エ	積極的な姿が見られなかった	0	0	0	0
オ	その他	0	0	2	3
	合計	41	100	72	100

オ「その他」に対するコメント・事業の内容や参加する学生によって、積極性が異なる。
・募集したが、参加者がいなかった。

学生の活動への積極性もアンケート結果から良好であることが伺える。また学生には、やむを得ず欠席・遅刻する場合には、出来るだけ早い段階で連絡するように厳しく指導しているが、連絡をしなかったり遅くなったりしたことがあったので、さらに指導を徹底したい。

(6) 実習セメスター

平成18年度から始まった、3年後期の実習セメスターを利用した学外教育体験学修も2年目を迎えた。平成19年度には54カ所からの募集があり、36カ所に延べ127名の学生が学外の学校での教育体験にかけた。主に平日の公立の幼稚園や小中学校、養護学校での学習支援活動であった。参加した学生は、子ども理解や学校理解にたくさんの学びが見いだせたと事後指導や応用期セミナー時に述べていた。受け入れ先の学校からも、この実習セメスター体験は、学生にとっても、受け入れ先の学校にとっても大変メリットのある体験活動であると言っていた。

表5と表6に、実習セメスターの学外教育体験学修の学生の参加実績を載せた。

表5 平成19年度実習セメスター学外教育体験学修の実績

	募集校	参加校	活動数	参加人数	活動日数		活動時間数	
					延べ日数	平均日数	延べ時間数	平均時間数
鳥取県	14	8	8	19	92	4.8	770.5	40.6
島根県	39	27	37	107	803	7.5	6453.5	60.3
その他	1	1	1	1	10	10.0	90	90.0
全体	54	36	46	127	905	7.1	7314	57.6

<参考：平成18年度の実績>

	募集校	参加校	活動数	参加人数	活動日数		活動時間数	
					延べ日数	平均日数	延べ時間数	平均時間数
鳥取県		14	13	30	222	7.4	2061.5	68.7
島根県		20	29	126	720	5.7	5577	44.3
その他		0	0	0	0	0.0	0	0.0
全体		34	42	156	942	6.0	7638.5	49.0

表6 校種別状況（平成19年度参加実績）

	校種	参加校	活動数	参加人数	活動日数		活動時間数	
					延べ日数	平均日数	延べ時間	平均時間数
鳥取県	幼稚園	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	小学校	5	5	13	61	4.7	501	38.5
	中学校	2	2	5	28	5.6	244	48.8
	特別支援	1	1	1	3	3.0	25.5	25.5
島根県	幼稚園	5	5	14	82	5.9	782.5	55.9
	小学校	15	20	70	577	8.2	4528.5	64.7
	中学校	4	5	11	78	7.1	831	75.5
	特別支援	1	5	8	45	5.6	173	21.6
その他	その他	2	2	4	21	5.3	138.5	34.6
	小学校	1	1	1	10	10.0	90	90.0
計	幼稚園	5	5	14	82	5.9	782.5	55.9
	小学校	21	26	84	648	7.7	5119.5	60.9
	中学校	6	7	16	106	6.6	1075	67.2
	特別支援	2	6	9	48	5.3	198.5	22.1
	その他	2	2	4	21	5.3	138.5	34.6

(7) 他大学との交流活動

愛媛大学教育学部が実施している、学生企画型地域連携実習の成果と課題を明らかにする目的で交流会が開催された。これに、類似した活動を行っている三重大学と1000時間体験学修を必修化している島根大学も参加し、3大学の交流シンポジウムという形で学生による発表会を実施し、情報交換を行った。

期 日：平成19年12月1日（土） 13時から17時まで

会 場：愛媛大学教育学部大講義室

参加者：愛媛大学教育学部地域連携実習参加者（1～4回生）、地域連携実習協力員
三重大学教育学部生及び大学院生、島根大学教育学部生

当日の主な日程

●各大学発表

愛媛大学 企画地域連携実習報告

「久米わくわくチャレンジャー」「東雲わくわくチャレンジサタデー」「ダンボクラブ」

三重大学 「ワクワクチャレンジクラブ」

島根大学 「1000時間体験学修を通して学んだこと」～奥田真行

「1000時間体験学修を通して学んだこと」～藤本昌克

●ポスターセッション

「地域連携実習、ワクワクチャレンジクラブ、1000時間体験学修」

4. 平成19年度の成果と課題

(1) 成果

① 1000時間体験学修の卒業要件の達成

1000時間体験学修が開始された平成16年度に入学した学生が、本年の3月に卒業した。卒業要件を満たす単位を取得した学生全員が1000時間をクリアすることができた（平均：1172時間、最低：1001時間、最大：2875時間 平成19年2月時）。また、要件を満たした学生には1000時間体験学修認定証を発行した。認定証にはそれぞれの代表的な基礎体験学修内容と、認定時間を記している。このことから、1000時間体験という量的なハードルは、4年間の学業期間において十分達成可能な量であることもわかった。

② 受け入れ先の理解と連携の深化

基礎体験学修の受け入れ先の事業所や学校側も、1000時間体験学修の趣旨を、定期的な連絡会議の説明や意見交換の中で理解していただいている。単なる「手間」不足から学生のボランティアを要請する図式ではなく、体験活動での学生の学びを確認しながら地域と大学が一体となって、学生を支援し育てようというスタンスで取り組んでいただけている。また、学びとしてあまり価値のない活動募集に対しては、教育支援センター内での協議により、受け付けない方向で対応している。

③ 実習セメスターでの学外教育体験と教育実習との往還関係

3年生後期の実習セメスターでは、従来の附属学校園での4週間の学校教育実習Ⅳと、

2年前から始まった実習 Semesterでの学外教育体験学修との補完的、往還的なメリットが生まれている。

多人数での教科指導が中心となる附属学校園での教育実習と、少人数で比較的継続的に長期にわたって学校や学級内の支援活動にあたる学外教育体験学修とで、子ども理解や学校や教師の仕事の理解などもすすみ、それぞれが学生にとって教職に就くための必要な資質や能力を高め合って、補完しあい相乗的な効果をもたらしているものと推察できる。

(2) 課題

① 基礎体験の学びの検証

基礎体験学修も4年が経過し、体験学修としての受け入れ先や、基礎体験のシステムも軌道に乗りつつある。今後教育支援センターとしては、この基礎体験学修で、学生がどのような力を身につけたか、基礎体験学修の効果について具体的に明らかにしていく必要がある。例えば、各学年ごとのセミナー時のアンケート調査等の自己評価からの学びの見取り、体験時間と学生の学びの質や資質・能力の向上との相関関係、基礎体験学修と卒業後の就職状況との関連等にもつなげていきながら、基礎体験学修での成果について明らかにしていきたい。

② 基礎体験の量（時間）の確保から体験の質の向上への工夫を図る

基礎体験の量的な充実、受け入れ先の事業所の協力等により、学校、地域、子どもという3つのフィールドの様々な、年間396件にも及ぶ受け皿が整うようになった。さらなる課題としては、それらの基礎体験学修の質的な向上をどのように図って行けばよいかである。

例えば、平成20年度から、全学でのインセンティブポイント制による、ボランティア活動も進められているが、教育学部としての基礎体験活動は、教職に向けての特化した活動として精査しながら、体験の質の向上へと結びつけて、より実りの多い学修を学生に提供するようにする工夫も必要とされる。

③ 専攻別体験との連携の向上

専攻別体験は、各専攻の特色に根ざした活動であり、各専攻の専門性を深化させるための教育体験活動として基礎体験活動の中に位置づけられている。選択の410時間の枠のなかで標準で100時間、最大250時間まで認定できるシステムとなっている。ビビット広場での、各専攻の専門性を生かした体験活動や、各講座で提供される専攻別体験によって、大学で学ぶ教科等の専門性を体験学修の中に連動させ、教職という専門性を生かし深める専攻別体験活動もさらに充実させながらすすめていく必要がある。

また、平成19年度にはFD戦略センターが中心となって、専攻別体験の活動実践紹介のための学生フォーラムも開かれた。これらの実践の中から、専攻別体験と基礎体験との関係をより構造化して、基礎体験との連携を促進していきたい。

資料1 平成19年度基礎体験領域の年間活動一覧表

平成19年度 基礎体験領域における

区分	活動名/他	対象	4月	5月	6月	7月	8月	
学内	教育支援センター	1年	入門期セミナーⅠ 基礎体験合同説明会	入門期セミナーⅡ				
		2年						
		3年						
		4年						
	サポートマイスター講演会	共通				繁浪啓子先生講演		
	企画事業	だんだん塾	共通		渡邊憲二先生講演	神門三郎・佐貫良子先生講演		
		← 専任教員による学生支援活動 (①基礎体験学修)						
	基礎体験学修連絡協議会	共通	第1回会議合同説明会					
	島大ビビット広場	共通				第1回は台風で中止	出前ビビット第2回第3回	
専攻	専攻別体験学修	専攻学生	← 教育学部の各講座の専門性を生かした、					
学外	民間	NPO法人ほか民間団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション				
	国	三瓶青少年交流の家	共通	共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア				
	県	島根県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、定時制				
		鳥取県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、青少年				
	協定市町村	島根県松江市		サタデースクール、放課後子どもプラン 他				
		出雲市		ウイークエンドスクール、科学館事業 他				
		安来市		週末子ども体験事業				
		江津市						
		雲南市		放課後学習チューター 他				
		東出雲町		幼稚園体験 他				
		奥出雲町		キャンプ				
		飯南町						
		斐川町		夏のキャンプ				
		川本町						
		美郷町						
		海士町		キャンプ				
	連携事業	鳥取県米子市		学童保育、子育て支援				
		境港市		学童保育、合唱指導				
		伯耆町		キャンプ				
		南部町		通学合宿				
日吉津村								
他		島根県浜田市	キャンプ					
	隠岐の島町	心に悩みをもつ子どものキャンプ						
	鳥取県大山町	通学合宿						

年間活動実施一覧表

附属教育支援センター

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
充実期 セミナーⅠ					充実期 セミナーⅡ	
			応用期 セミナー			
			原 広治 先生講演			
		法吉小・渡 小研究会 参加	掛合小・掛 合中研究会 参加			

の事前事後指導 ②日常的な相談活動 ③教採にむけての面接指導等) →

					第2回会議 アンケート	
		第4回	第5回	第6回		

講座主催による年間を通した体験プログラムの実施 →

指導者養成、週末子ども体験、福祉事業 他

高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他

教育施設での研修及び施設ボランティア 他

← 実習 Semester 教育体験活動 →	幼稚園・保育所、小・中学校学習支援
← 実習 Semester 教育体験活動 →	ウイークエンドスクール
← 実習 Semester 教育体験活動 →	週末こども体験活動
← 実習 Semester 教育体験活動 →	
← 実習 Semester 教育体験活動 →	教育研究会参加
← 実習 Semester 教育体験活動 →	
← 実習 Semester 教育体験活動 →	
	冬のキャンプ
← 実習 Semester 教育体験活動 →	
← 実習 Semester 教育体験活動 →	小学校学習支援
← 実習 Semester 教育体験活動 →	小中学校学習支援
← 実習 Semester 教育体験活動 →	小学校学習支援

島根大学教育学部附属教育支援センター研究紀要
『島根大学教育臨床総合研究 2008 Vol.07』掲載